

カザグルマ自生地

(大宇陀小附)



カザグルマは本州、四国、九州に分布するキンポウゲ科のつる植物で、花の姿が「風車」に似ていることからこの名がつけられました。花期は5月～6月。園芸品種クレマチスは、近縁のテッセン（中国産）とともにこの花の交雑により生まれたそうです。

野生のカザグルマは、生育地の環境の変化などで著しく減少し、環境省レッドリスト（2007年）では準絶滅危惧の指定を受けています。

本自生地は、昭和23年に天然記念物の指定を受け、大宇陀町では平成4年に「町の花」として制定されました。

平成9年度からは、土地所有者のご協力をいただきながら、国の指導のもと本自生地の生育実態調査や、自生地の環境改善に努めています。

現在は、地内に次々と開花が確認されるようになりました。今後も、この希少植物を保護していくため、環境保全に努めていきます。



先輩が南極地域観測隊の一員に！ 母校で南極教室を開催

今日の Pick Up



昨年11月に南極昭和基地に向けて出発した国立極地研究所 第58次日本南極地域観測隊。この観測隊で榛原小学校OBである岡本裕司さん（ミサワホームグループ）が隊員として活動されています。日頃、工務店で働く岡本さんの任務は、基本観測棟の組立や居住棟などの建物メンテナンス。

5月19日には、母校である榛原小学校で、岡本さんや現地の隊員が講師となり「南極教室」を開催。この教室では、南極の昭和基地と小学校を衛星回線で接続し、実際に基地のみなさんが児童と顔を合わせながら、南極の様子を紹介しました。

南極昭和基地と日本の時差は約6時間。当日の基地の気温は-11℃。

児童からの質問に応じて、基地建物の様子や日常の食事、南極に住む動物、オーロラなどいろいろなお話を聞かせていただきました。

同観測隊の任期は2018年春まで。

みなさんの無事帰国を願っています。隊員のみなさんありがとうございました。



▲昭和基地近くの氷山から削った1万～2万年前に降った雪からできた氷。南極観測船「しらせ」に乗って榛原小にやってきました！

◀先日、隊員のお楽しみ企画として氷山に溝を掘って流しそめんを楽しんだそうです（^^）